

2014年6月25日
株式会社パスコ

(報道資料)

インドネシア共和国スマトラ島の国土空間データ基盤の作成完了 - 日本の国土に匹敵するデータを構築 -

株式会社パスコ(本社:東京都目黒区、代表取締役社長:目崎 祐史、資本金 87.5 億円、セコムグループ、東証一部、以下:パスコ)は、インドネシア共和国(以下:インドネシア)において 2010 年 12 月より実施していた国土空間データ基盤(以下、NSDI:National Spatial Data Infrastructure)におけるデータの取得と構築業務を 2014 年 6 月 14 日に無事完了し、インドネシア政府にデータの引き渡しを行いました。

■スマトラ島 NSDI の概要

2007 年 3 月にインドネシア政府と日本政府の間で、インドネシアにおける NSDI の構築にかかる円借款契約が締結され、パスコは 2010 年 12 月インドネシア空間情報庁と「国土地理空間データ基盤開発 JICA ODA 借款 No.IP-544 コンポーネント 1: スマトラ島地理空間データの取得および構築」契約を締結し、スマトラ島全島の 64%にあたる 303,439 km²における 1:50,000 レベルの空間データおよび 4 都市の 1:10,000 レベルの空間データを構築しました。

スマトラ島は熱帯雨林地帯のため、天候に左右されやすい光学カメラでは航空画像の取得が困難な地域です。そこで、今回のプロジェクトでは X バンドの合成開口レーダーを航空機に搭載して航空画像を取得しました。この図化には、パスコが合成開口レーダー衛星 TerraSAR-X を 2007 年に運用を開始して以来、蓄積してきた解析技術を利用しています。また、本図化の参考資料として、2006 年～2011 年まで運用されていた日本の陸域観測技術衛星 ALOS(だいち)のアーカイブデータも利用し、300 名の現地技術者を雇用して日本の国土(約 377,961km²:平成 25 年 10 月 1 日国土地理院)に匹敵するデータ整備を実施しました。

パスコが構築したデータは、今後、インドネシア国内において国土空間データ共有システムにより、関係省庁で閲覧・利用が可能となる予定です。これらの空間データは、インドネシアにおける国土の開発や天然資源管理、環境保全および防災の重要な基盤情報として活用されます。

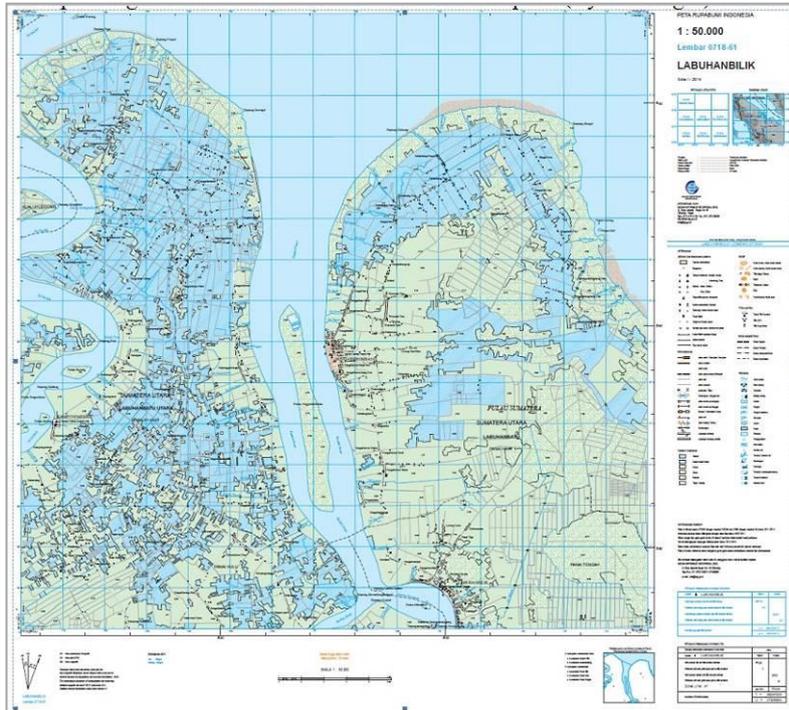
パスコは今後も、インドネシアをはじめ成長著しい ASEAN 諸国に対して空間情報を通じて安全安心な社会の構築に貢献していきます。

■本件に関するお問合せ先

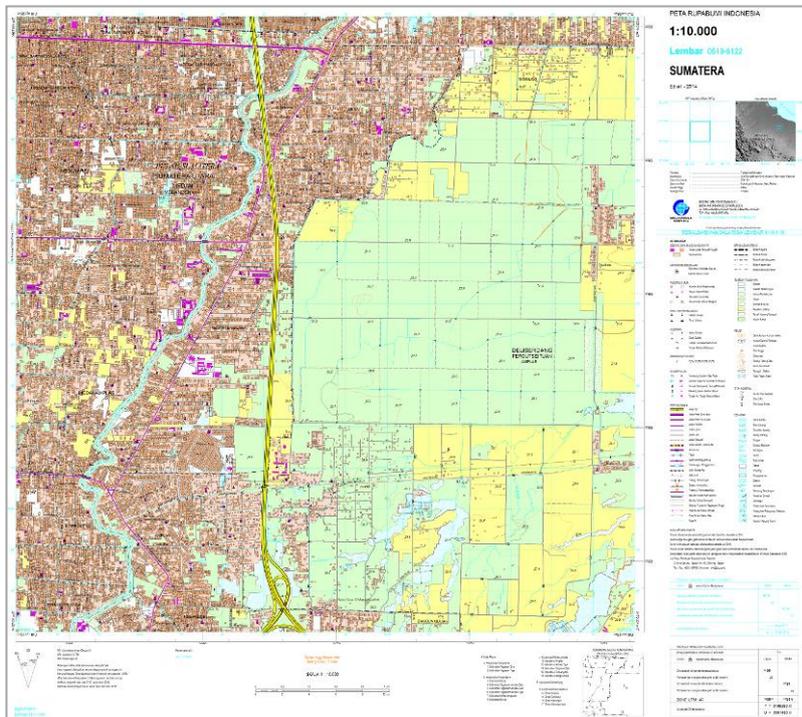
株式会社パスコ 基幹業務部 広報担当

TEL:03-6412-2800 /「お問合せフォーム」 <http://www.pasco.co.jp/contact/>

(別紙)



空間データ整備 1:50,000 サンプル



空間データ整備 1:10,000 のサンプル